

平成27年度 大阪薫英女学院中学校高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「敬・信・愛」を建学の精神とする本校は、「21世紀の国際化した社会にたくましく生きる女性を育成する」ことを目標に掲げ、生涯にわたって幸せに充実した人生を送る人間の育成を目指している。

自らの人生を切り拓き、いかなる苦難にも負けることなく「たくましく生きていく」ためには、「豊かな学力」と「豊かな人間性」が不可欠である。本校においては、「豊かな人間性を育むこと」と「豊かな学力をつけること」の二つを一体のものとして捉え、よき集団の中で「豊かな人間性（人と関わる力）」を育てるとともに、互いに励まし合い競い合って「学力の向上」を図る。

- 1 国際的な視野を持ち論理的に考えることのできるグローバル人材の育成。
- 2 夢の実現に向けた実力の育成。
- 3 友情を育み自立心を養う。

2 中期的目標

- 1 国際的な視野を持ち論理的に考えることのできるグローバル人材の育成。

(1) 留学の充実

姉妹校との連携を深め、安心安全な留学を基本とする「長期留学」の更なる充実に努める。現地アドバイザーとの連絡を密にし、生徒の状況把握に努め、留学の円滑な実施に向けて努力する。引き続き、重大事故ゼロを旨とするとともに、やむなき場合を除きホストチェンジを極力減らすようにマッチングに留意する。

(2) 海外研修の充実

単なる観光ではなく体験を重視したプログラムを実施し、現地において異文化理解が深められるよう努める。3ヶ月の短期留学を検討する共に、これまで実施してきたニュージーランド1ヶ月留学やイギリス・カナダへの語学研修、各種海外修学旅行の充実に努め、生徒のアンケートにおける満足度を80%以上とする。

(3) 「実用英語技能検定(英検)」の取り組み

全校を挙げて英検に取り組み、中学卒業時で準2級、高校卒業時で普通科は2級、国際科は準1級以上を目標とする。

2 夢の実現に向けた実力の育成

(1) 授業の充実

公開授業、研究授業を定期的実施し、「分かる授業、興味を持てる授業」を目指して、更なる授業改善に取り組む。

(2) 学習意欲の喚起

「一人で勉強しない」を合い言葉に友人とともに学習に取り組み学力の向上を図る。

(3) 夢を実現する進路指導

生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるように努める。

3 友情を育み自立心を養う

(1) ともに競い合い励ましあって向上する集団の育成に努める。

学校行事に真剣に取り組むことによって、互いの存在に気づき尊重する豊かな心を育み、みんなでやり遂げた達成感を味わうとともに、クラスへの帰属意識を養い、よき刺激を与え合う集団を育成する。

(2) 規範意識と豊かな心を育む

基本的生活習慣の確立に努める。

(3) 安心・安全な学校づくり

いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団作りを推進する。また、そのための方策の一環として保護者との連携の強化に努める。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [27年6月・28年1月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業アンケート結果をみると、情報、芸術、保健体育、ネイティブによる英語、および社会が授業評価の平均値を上回っており、座学に対する評価が低い傾向にある。教員相互の授業公開、教科内意見交流会の再検討、ICTを活用した授業展開など、更なる生徒の授業への興味、関心を高める必要がある。 保護者アンケートによると、生徒にとっての「わかりやすさ」は65%、わからない生徒にとっての補習、講習の満足度も73%にとどまった。「家庭学習の定着」に関する項目には全体の62%しか満足这个回答がなく、子ども達の家庭学習の習慣化、家庭でも学習する子どもの姿が強く保護者から求められている。 一方、英語検定に対する満足度は、85%に達しており、保護者、生徒の求めと教員の姿勢が一致している。また、英語を中心にした本校の国際的な視野を目指した教育方針には94%の肯定意見をいただいた。 <p>【進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートでは「進路についてよく考えさせる指導を行っている」との概ね7割を超す肯定的な回答が得られ、時間を工夫して生徒の悩みや相談に普段から親身になって教員があたる姿勢が評価された。 国公立12名、関関同立127名の大学合格結果は本年度の指導の成果としてあげられるが、入学した保護者の学校への期待は、更なる進学実績の向上であり、国公立大学への受験者、合格者の数を如何に増やすかが大きな課題として残る。 希望進路の決定は生徒、保護者、教員の最大目標であり、引き続き進路指導室、高校3年ブロックはもとより各ブロックと歩調を合わせ、生徒一人一人にきめ細かな指導をしていきたい。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ、遅刻などの生活習慣は、そのまま学校生活、授業にもつながる中で保護者の87.5%が学校の指導に肯定的である。そこには画一的な指導ではなく、日常的に教員と生徒の信頼関係の構築が必要であり、「親身になって教員が相談に応じてくれる」満足度(72.9%)は教員の指導が広く支持されているものと考えられる。 学校2大行事である文化祭・体育祭の満足度は教員、生徒、保護者共に8割に及ぶ。一つのものを作り上げるための努力過程、問題解決、そして達成感その満足度を生み出している。しかし、クラス中心の行事運営からクラブ活動は物理的に限定され、クラブ活動の満足度は学校行事と比べると、2割近く下がってしまっている。5割近くのクラブ入部の生徒がいる中では、その満足度も今後の課題である。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校方針を基に各ブロックが日々のクラス運営を実施しているが、「取組み」というクラスを母体にした運営は、希薄になりがちな友人関係を強固なものにしている。「本校に入学しての満足度」の肯定意見は91%と高く、良好な「友人との関係」が満足理由として群を抜いている。 インターネットを利用した外部への学校情報、内部の情報共有が急務であるが、緊急連絡用のフェアキャストは8割近くの人に評価されている。 	<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習へのモチベーションをうまく引き出す環境づくりができています。個々の得意分野はさらに伸ばし、苦手分野も強化し、あきらめさせない指導を感じる。 英検はめざましい実績を毎年更新している。中学の英検も高校の回数に合わせた指導を期待する。 グローバルな人材育成を目的にするならば英語力に加え、日本史なども含め日本のこと、世界の状況など社会科の学習の定着を望みたい。 国際科1年間留学の帰国後の大学進学指導をさらに充実したものにして欲しい。 共同学習と個別学習のバランスをとった指導も必要と感じる。 <p>【進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の能力に応じた進路指導が適切に行われていると感じる。本校の英語力強化が、進路決定に最大限に生かしている。 中学段階において進路指導目標について考えるに当たり、将来の選択の幅を示したり、本校卒業生の実績、モデルケースを提示することは生徒、保護者にとっての大きな刺激となると思える。 英語検定や留学プログラムなどは優れた点であると評価できる。さらに、漢字検定、数学検定などの他の教科にもチャレンジすることを望む。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身だしなみなどの風紀については守られている。 あいさつの習慣が全体的に薄く感じられる。制服などの身だしなみも大切であるが教職員も含めて「あいさつ」の習慣は学校としてのイメージの第一である。 文化祭、体育祭の開催時期、規模、内容などは生徒、教員、保護者との連携も含め満足している。 この完成度の高い行事を近隣の地域の人にも知ってもらい、学校が地域とともに存在することを意識することも必要である。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全なPTA活動が行われ、教員との連携が適正に行われている。 生徒一人一人が自分の学校に誇りを持ち、友人と良き関係を築ける環境ができています。 中学、高校における活動が、卒業してもその後の友人関係につながっている。 学校からの緊急連絡、学外での移動時の安着確認などフェアキャストの導入は評価できる。連絡の頻度を増やすことも検討してほしい。 教室内の環境整備(加湿器など)、学校内の設備改善(ウオータークーラーのメンテナンスなど)など生徒の生活空間をさらに居心地の良いものにして欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組み計画内容	評価指標	自己評価
1 国際的な視野を持ち論理的に考えることのできるグローバル人材の育成。	(1)海外留学の安全な実施と内容の充実	ア. 全ての海外における学習が安全に行えるよう体制の整備、生徒の支援に取り組む。特に1年間の長期にわたる留学については無事に終えることができるよう、現地との連絡を密にして生徒を支援する。 イ. 1年間の留学を意義あるものにするために、親元を離れ海外で生活する決意を固め、具体的目標を持って留学に望むよう、留学説明会や保護者交流会を定期的実施する。	ア. 生徒の安全にかかる重大事故ゼロ。 イ. 決意を持って留学ができたか、予期した成果のある留学であったかを留学後に検証する。帰国後のアンケートで満足度100%	ア. 生徒の安全に関わる事故や事件はゼロであり、無事に全ての海外研修を実施することができた。(○) イ. 留学説明会を5月、8月、11月に開催。留学中には、留学報告書に基づき学級通信を10回発行。長期留学帰国後の留学論文ならびにスピーチにおいて、全ての生徒が貴重な経験をしたことを述べており、アンケートによると、「英語力、自立」がともに伸び、長期留学の満足度は100%であった。(○)。
	(2)各種海外研修の充実	ウ. 姉妹校との連携の強化、並びに現地アドバイザーと本校国際教育部との連携を密にし、生徒や保護者を支える体制の維持に努める。 ア. 各種海外研修についても、事前の準備を含めて、内容の一層の充実に努める。	ウ. NZ駐在教員が現地校を訪問する。中学は10校以上。高校は20校以上。また、アドバイザーからの月例報告は月1回以上。 ア. 海外研修後の生徒アンケートにおいて満足度80%以上、	ウ. 現地駐在教員は、中学校14校、高校24校を訪問し、姉妹校との信頼関係構築に寄与した。アドバイザーからの報告は、各生徒について11回実施。(○) ア. 生徒アンケート結果 普通科のNZ修学旅行及び国際科シンガポール修学旅行の満足度はいずれも100%。(◎)
	(3)実用英語技能検定(英検)の取り組み	ア. 「英検取組み週間」を設定し、クラスの仲間とともに、より上級にチャレンジする。	ア. 中学卒業時に英検準2級70%、高校卒業時に普通科は2級30%、国際科は準1級30%の取得	ア. 英検取得者の数 中学卒業時(卒業生数57名) 2級・準2級 39名(68.4%) 3級 15名(26.3%) 高校卒業時 普通科(卒業生数125名) 1級・準1級・2級 27名(21.6%) 準2級 55名(44.0%) 国際科(卒業生数144名) 1級・準1級 33名(22.9%) 2級 103名(71.5%)
				ア. 英検取得者の数 中学卒業時(卒業生数57名) 2級・準2級 39名(68.4%) 3級 15名(26.3%) 高校卒業時 普通科(卒業生数125名) 1級・準1級・2級 27名(21.6%) 準2級 55名(44.0%) 国際科(卒業生数144名) 1級・準1級 33名(22.9%) 2級 103名(71.5%) 目標に達しなかった。(△) 合格基準にこだわった一層の取り組みが必要である。
2 夢の実現に向けた実力の育成	(1)授業の充実	ア. 公開授業および各教科による研究授業を実施し、授業力の向上を図る。授業アンケートを実施し、「分かる授業、興味を持てる授業」を目指して、更なる授業改善に取り組む。	ア. 授業アンケート結果	ア. 保護者対象の授業参観を実施。教員を対象とする「授業公開週間」を6月に2週間実施。また新任教員による研究授業を実施。 「授業見学シート」を授業担当者に渡し、授業改善の参考とした。 授業アンケートの結果は5段階評価で平均3.93。この結果は、昨年より0.05ポイント上がっており、各教科での改善が見られた。(○)更に4.0を目標に授業改善に努める。

	<p>(2)学習意欲の喚起</p> <p>(3)夢を実現する進路指導</p>	<p>ア. 「一人で勉強しない」を合い言葉に友人とともに学習に取り組み学力の向上を図る。</p> <p>ア. 主体的に進路目標を定め、真に望む進路が実現できるよう支援に努める。</p> <p>イ. 国公立大学15名以上、関関同立150名以上合格。</p>	<p>ア. 各クラスにおける定期テスト対策学習会の実施状況。自習室の利用状況。</p> <p>ア. 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」が選択できる進路相談を、高校3年生で5回程度実施する。</p> <p>イ. 進学実績</p>	<p>ア. 年5回の定期テスト前に、約1週間の学習会を放課後に開催した。全クラスで実施され、参加率はほぼ100%であった。自習室の利用は、延べ1277名(26年度)から3640名(27年度)へと、2.8倍増加した。これは休日も開室したことと生徒の意欲の高まりによるものと考えられる (○)</p> <p>ア. 進路ガイダンスを高1で1回、高2で4回実施。高3においては、保護者対象3回、生徒対象5回、保護者、生徒対象で2回実施。生徒の進路選択の支援に努めた。(○)</p> <p>イ. 国公立進学12名、関関同立127名 目標値の8割に止まった。(△) 早期から進路説明、情報提供などで、生徒に国公立・私立大学などについて意識を持たせることが重要である。</p>
<p>3 友情を育み自立心を養う</p>	<p>(1)ともに競い合い励ましあって向上する集団の育成に努める。</p> <p>(2)規範意識と豊かな心を育む</p> <p>(3)安心・安全な学校づくり</p>	<p>ア. 学校行事に真剣に取り組み、互いの存在に気づき尊重する「豊かな心」を育む。また、行事準備期間を重視しさまざまな葛藤を経てクラスへの帰属意識を養い、ともに支えあう集団を育成する。</p> <p>ア. 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成</p> <p>イ. 生徒会活動の活性化を図り、生徒の主体的な活動を支援する。</p> <p>ウ. クラブ活動の活性化</p> <p>ア. 一人一人を大切にするクラス(居心地がいいと感じるクラス)を生徒と共に協力して作る。本校「いじめ防止基本方針」に基づきいじめ事象の未然防止に努める。</p> <p>イ. 保護者への情報の提供、共有に努める。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケートにおいて「満足度」が体育祭で90%、文化祭で80パーセント以上。学校教育自己診断における友人関係の満足度70%。</p> <p>ア. 保護者に対するアンケート結果で80%</p> <p>イ. 生徒会活動の状況</p> <p>ウ. クラブ活動の実績</p> <p>ア. 保護者ならびに生徒アンケート結果</p> <p>イ. 保護者アンケート結果</p>	<p>ア. 体育祭について、「よかった」と答えた生徒は、中学は99%、高1は97%、高2は98%、高3は96%。文化祭に取り組んだ満足度は、中学で84.4%、高校は81.5%。文化祭でのクラスの団結度は中学で97.4%、高校で91.5%。学校教育自己診断で、学校生活で満足している項目を尋ねたところ友人関係が最も多く、61.4%に達している。(○)</p> <p>ア. 保護者アンケートにおいて、「生徒は身だしなみや遅刻など、生活のきまりを十分に守っている」と答えた割合は87.5% (○)</p> <p>イ. 生徒会活動は、上級生と下級生が協力し合い、日々の挨拶運動やベルマーク回収、行事の運営に努め、豊かな学校生活に貢献した。(○)</p> <p>ウ. 陸上部は、全国駅伝大会において3位、バスケットボール部はインターハイベスト16、ソフトテニスは大阪総体5位など目覚ましい成果を収めたが、他のクラブにおいては活動が充分とは言えない。(△) 運動・文化系クラブ共に、更に大会や発表の機会を奨励していきたい。</p> <p>ア. 学校の雰囲気がよく生徒が生き生きとしている」と答えた保護者は92.0%。「学校で満足していること」の1位に「友人」と答えた生徒は、56.6%。「悩みを相談できる友人がいる」生徒は85.8%。(○)</p> <p>イ. 情報の提供に関しては、73.0%が十分に提供していると答えている。HPについても情報共有の場とするのが課題である。「PTA活動が活発で、学校とよく連携できている」と答えた保護者は83.9%。(○)</p>